

第 54 回臨床検査技師国家試験結果発表なる！

去る 2 月 29 日に実施された第 54 回臨床検査技師をはじめ医療関連職種の状態試験結果が公表された。結果は以下のとおりである。

職 種		受験	合格者		疑義 問題
		者数	数	率(%)	
臨床検査技師	全体	3,997	2,947	73.7	2
医 師	新卒	7,519	7,101	94.4	5
	全体	8,535	7,733	90.6	
歯科医師	新卒	2,487	1,948	78.3	5
	全体	3,295	2,269	68.9	
保健師	新卒	10,720	9,866	92.0	1
	全体	11,055	10,066	91.1	
助産師	新卒	1,631	1,604	98.3	1
	全体	1,722	1,690	98.1	
看護師	新卒	46,718	44,176	94.6	1
	全体	51,313	46,342	90.3	
薬剤師	全体	13,773	10,487	76.1	2
診療放射線技師	全体	2,444	1,789	73.2	5
臨床工学技士	全体	1,816	1,510	83.1	3
救急救命士	全体	2,523	2,022	80.1	4
理学療法士	全体	7,997	6,924	86.6	12
作業療法士	全体	5,783	4,257	73.6	18
視能訓練士	全体	683	648	94.9	1
歯科衛生士試験	全体	6,361	6,106	96.0	3
柔道整復師	全体	6,702	5,069	75.6	2
あん摩マッサージ指 圧師	全体	2,020	1,772	87.7	
はり師	全体	5,561	4,347	78.2	
きゅう師	全体	5,539	4,344	78.4	3
義肢装具士	全体	130	128	98.5	1
言語聴覚士	全体	2,574	1,788	69.5	1
精神保健福祉士	全体	7,375	4,456	60.4	
社会福祉士	全体	45,324	13,865	30.6	
介護福祉士	全体	142,765	73,302	51.3	
全 体		408,362	278,556	68.2	70

臨床検査技師は、新卒受験者 3,167 名、同合格者 2,765 名、同合格率 87.3%で、既卒者は、それぞれ 830 名、182 名、21.9%となっている。総数では、受験者 3,997 名、合格者 2,947 名、合格率 73.7%である。

更に、詳細は以下のとおりである。

- ◆ 厚生労働大臣指定学校 ◆ 文部科学大臣指定学校
 総数：1,132 / 1,573 (72.0%) 総数： 531 / 751 (70.7%)
 新卒：1,055 / 1,198 (88.1%) 新卒： 480 / 547 (87.8%)
 既卒： 77 / 375 (20.5%) 既卒： 51 / 204 (25.0%)
- ◆ 保健衛生学科 ◆ 薬科大学
 総数：1,063 / 1,287 (82.6%) 総数： 18 / 67 (26.9%)
 新卒：1,031 / 1,145 (90.0%) 新卒： 13 / 39 (33.3%)
 既卒： 32 / 142 (22.5%) 既卒： 5 / 28 (17.9%)
- ◆ 栄養学 等 ◆ 医科大学
 総数： 199 / 305 (65.2%) 総数： 1 / 2 (50.0%)
 新卒： 185 / 237 (78.1%) 新卒： 1 / 1 (100.0%)
 既卒： 14 / 68 (20.6%) 既卒： 0 / 1 (0.0%)

- ◆ 歯科大学 ◆ 外国医科大学又は歯科大学
 総数： 1 / 8 (12.5%) 総数： 0 / 1 (0.0%)
 新卒： 0 / 0 (0.0%) 新卒： 0 / 0 (0.0%)
 既卒： 1 / 8 (12.5%) 既卒： 0 / 1 (0.0%)
- ◆ その他
 総数： 2 / 3 (66.7%)
 新卒： 0 / 0 (0.0%)
 既卒： 2 / 3 (66.7%)

従来から「厚生労働省が公表する合格率は総数であり、既卒合格率による総数合格率の低下」は表現されていない」又「厚生労働大臣指定学校、文部科学大臣指定学校、保健衛生学科の、所謂本来の「臨床検査技師養成」に携わる教育機関の合格率を低下させているのは、その他の受験者の合格率である」とも言われてきたが、今回の結果では、上記三校以外からの受験者は<221/386名>で合格率は総数で 57.3%である。一方、上記三校の結果は、新卒者の合格率で 88.8%<2566/2890>、既卒者は 22.2%<160/721>、総数で 75.5%<2726/3611>となっている。即ち、受験者全体の結果と殆ど差はない状況である。

養成校の実習教育は、医療機関へ実習生を送り込み臨床検査の現場で教育を受けさせているが、良質の臨床検査を追求する検査技師にとっては、質の高い臨床検査技師を養成することも務めである。

臨床検査技師は未だ「業務独占」が覚束ない状況とはいえ、国民のための臨床検査の質を担保する観点からも「臨床検査技師」そのものの質の向上は責務である。そのためには、卒業教育にまかせるのではなく、実習現場をはじめ各関連団体との調整を基本とした、総合的且つ抜本的な改革が必要となろう。勿論、そこには国家試験も含まれることは言うまでもないことである。その確立を経てはじめて「日臨技生涯教育研修制度」或いは「認定技師制度」が生きてくるのではなかろうか。国民の目線からみる「臨床検査」はひとつであり、「臨床検査技師」も同様に 1 人なのである。

◆ 臨床検査技師年度(回)別合格率

